

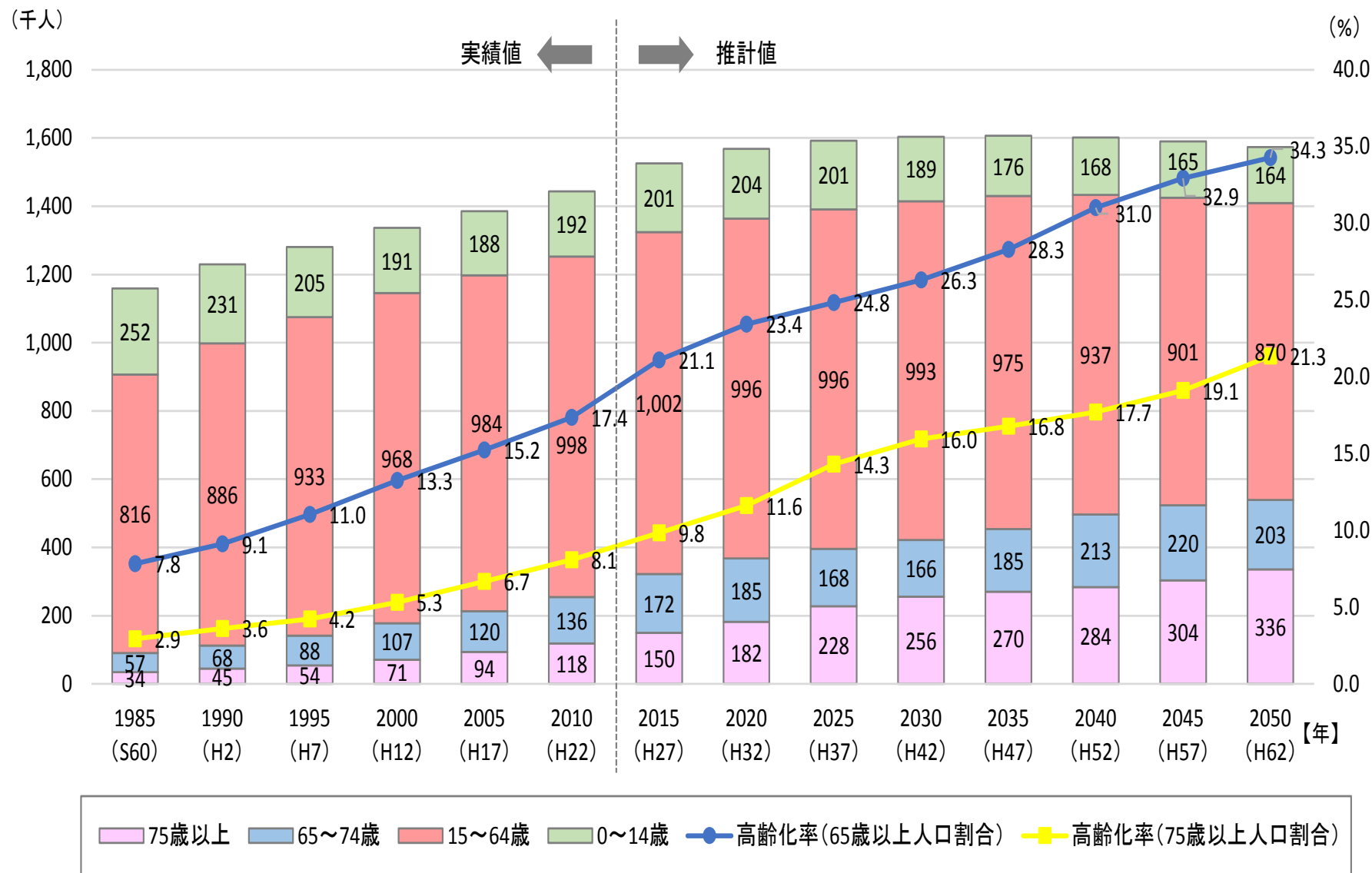
高齢化・長命化が問い直す 健康づくりと地域のあり方



2015年10月1日

福岡市副市長 荒瀬 泰子

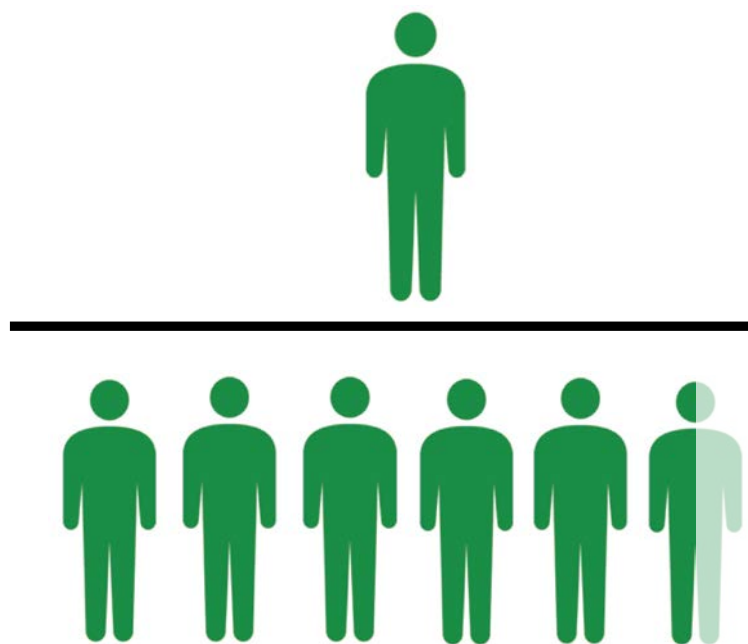
福岡市の人口と高齢化率の推移



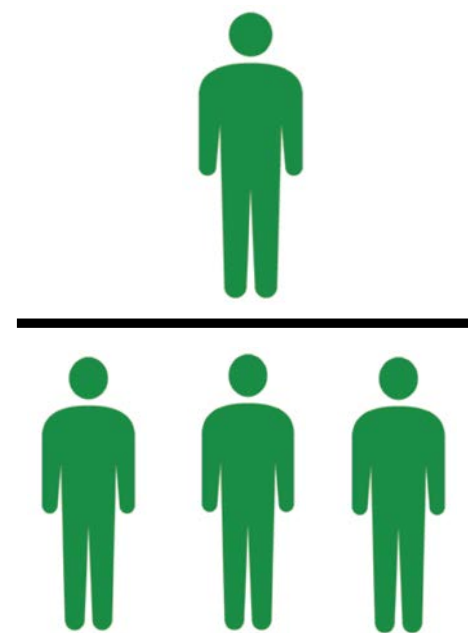
福岡市の全人口に占める高齢者(65歳以上)の割合

平成17年(2005年)
6.5人に1人

平成37年(2025年)
4人に1人



高齢化率
15.2%

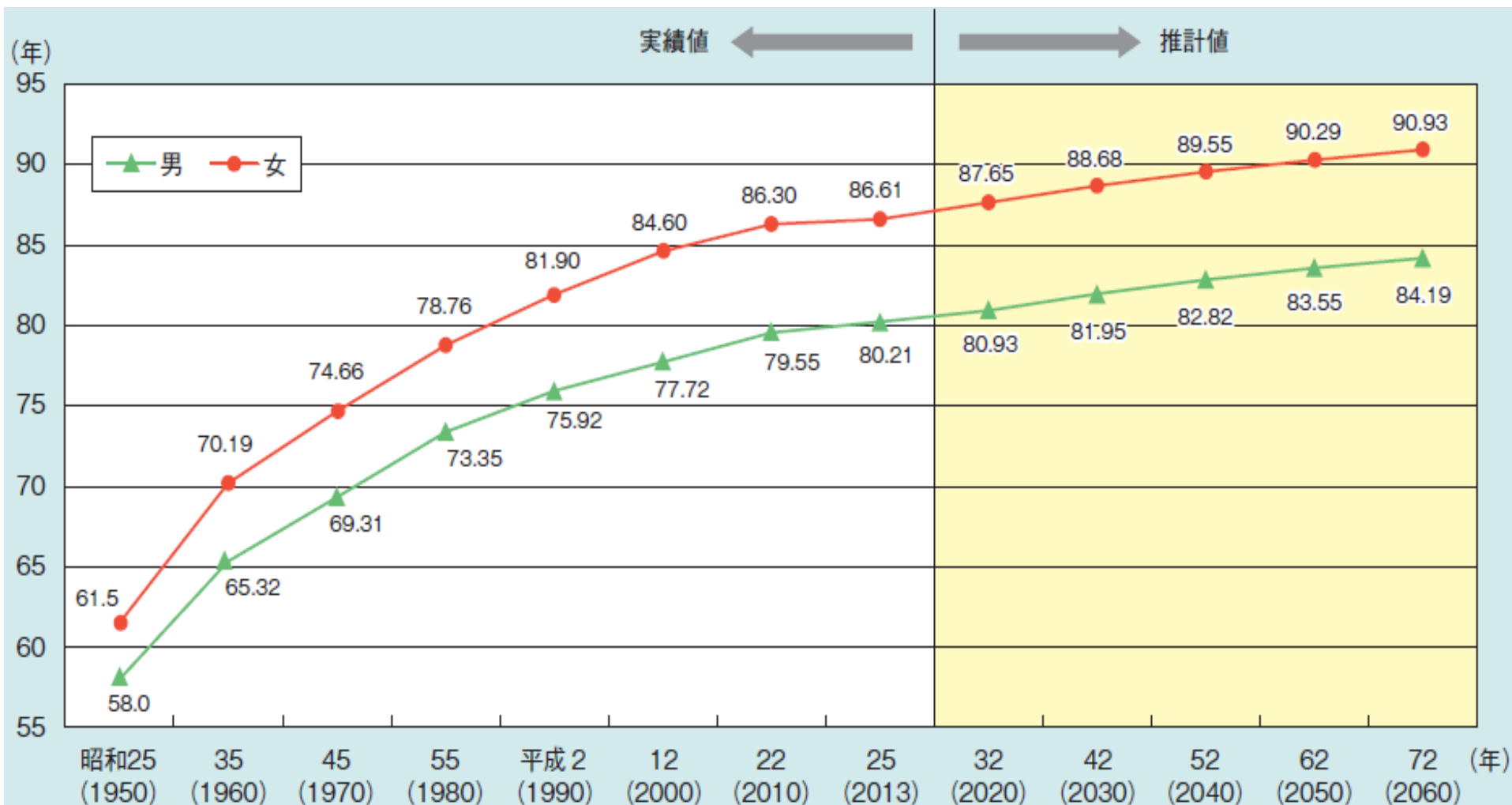


高齢化率
24.8%

超高齢社会

超高齢社会に向けての 「健康づくり」のあり方

平均寿命の推移と将来推計(全国)



資料：1950年及び2013年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2010年までは厚生労働省「完全生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

(注) 1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

健康寿命とは？

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

大都市（20都市）の健康寿命（平成22年）（単位：才）

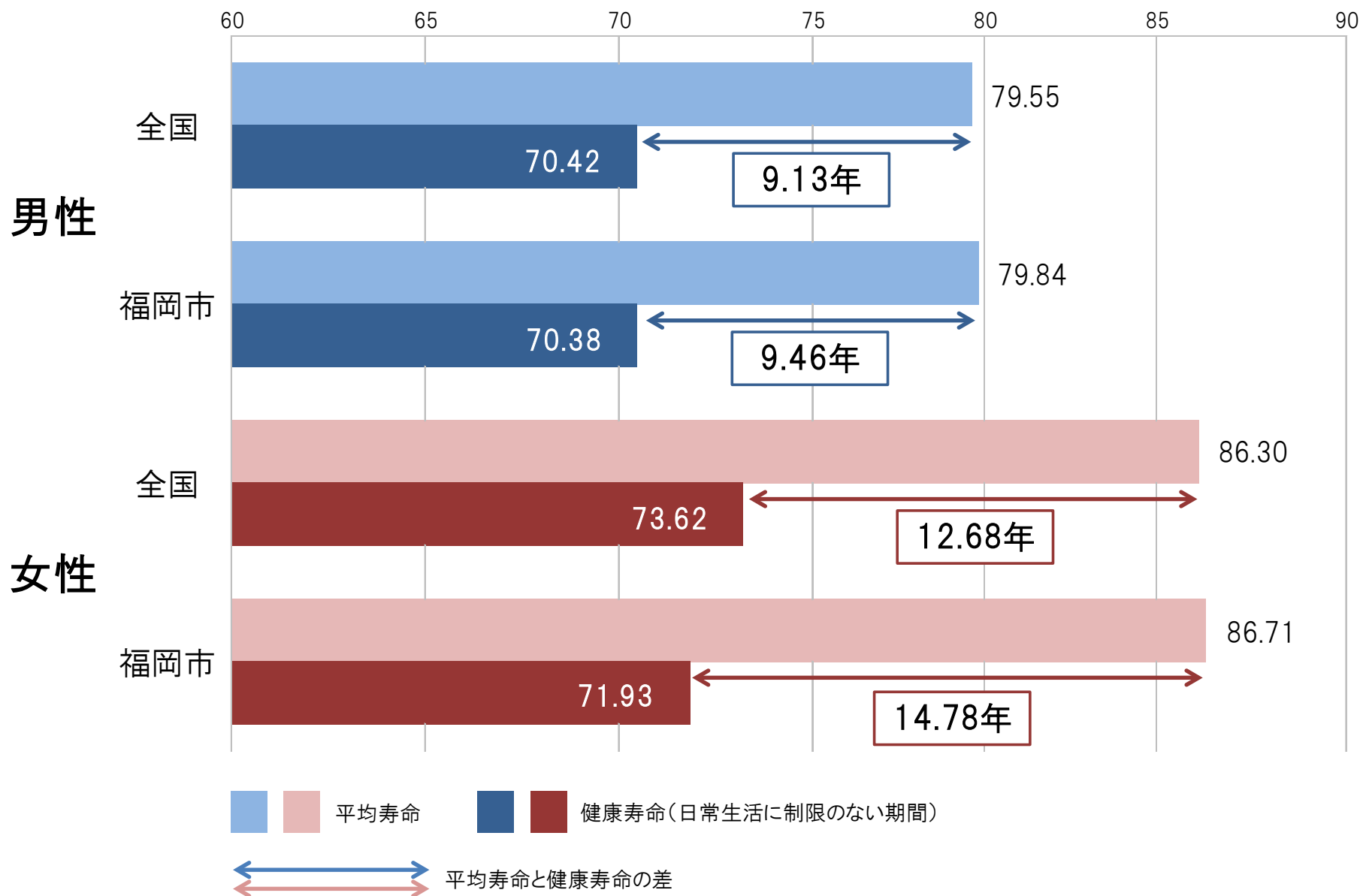
男性			女性		
1位	浜松市	72.98	1位	浜松市	75.98
2位	千葉市	71.93	2位	静岡市	74.63
3位	さいたま市	71.50	3位	仙台市	74.42
4位	相模原市	71.43	4位	京都市	74.34
5位	静岡市	71.28	5位	横浜市	74.14
6位	横浜市	70.93	6位	さいたま市	73.92
7位	名古屋市	70.48	7位	相模原市	73.68
8位	仙台市	70.42	7位	名古屋市	73.68
9位	福岡市	70.38	9位	新潟市	73.59
10位	京都市	70.14	10位	神戸市	73.33
11位	神戸市	70.10	11位	札幌市	73.18
12位	広島市	70.01	12位	東京都区部	73.13
13位	東京都区部	69.71	13位	千葉市	73.06
14位	札幌市	69.55	13位	川崎市	73.06
14位	堺市	69.55	15位	岡山市	72.71
16位	新潟市	69.47	16位	広島市	72.23
17位	川崎市	69.29	17位	北九州市	72.20
18位	岡山市	69.01	18位	大阪市	72.12
19位	北九州市	68.46	19位	福岡市	71.93
20位	大阪市	68.15	20位	堺市	71.86
(参考)	福岡県	69.67	(参考)	福岡県	72.72
	全国	70.42		全国	73.62

（平成25年度厚生労働科学研究費補助金による「健康日本21（第2次）の推進に関する研究班」公表資料より作成）

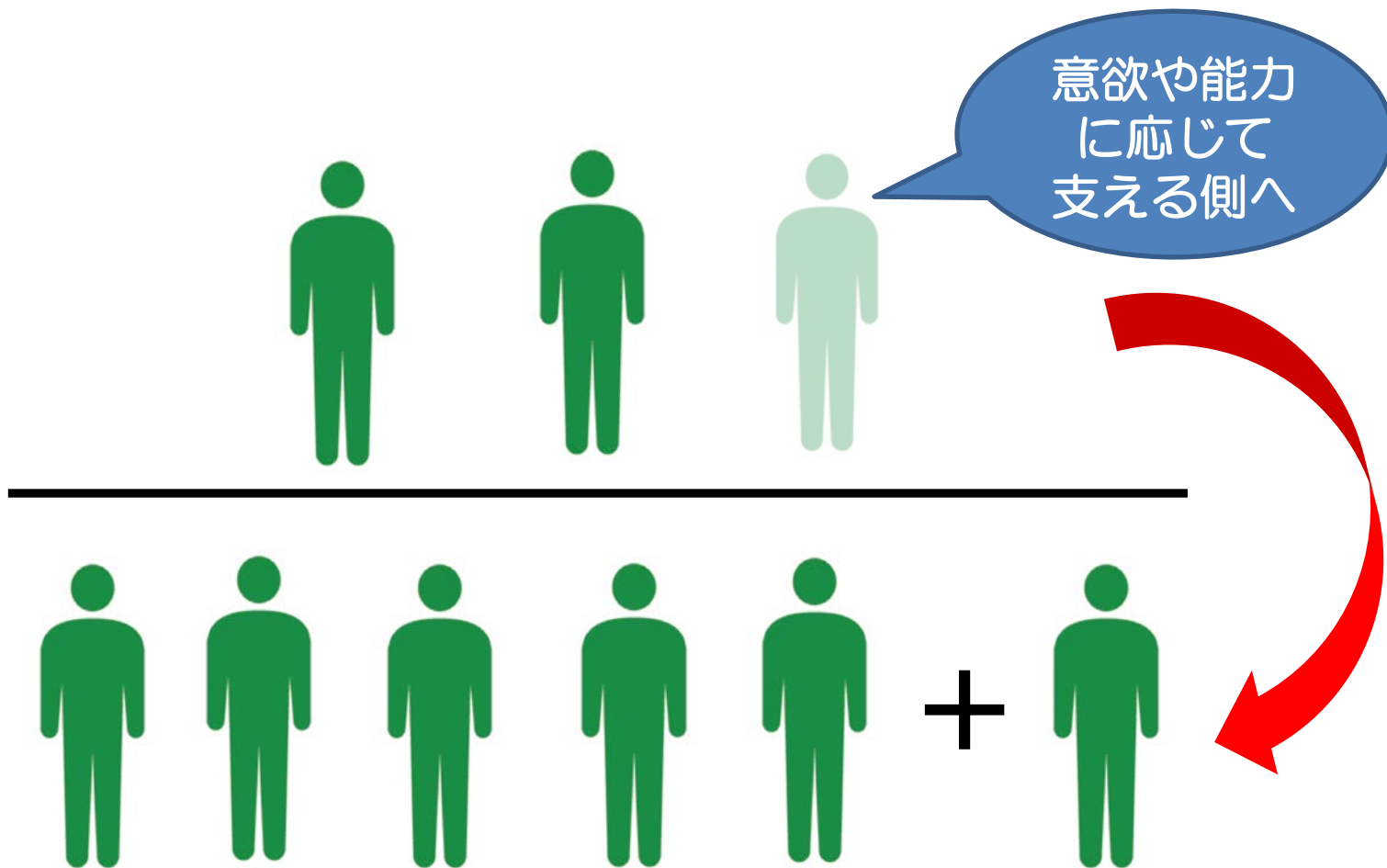
福岡市

男性 70.38歳
女性 71.93歳

福岡市は平均寿命と健康寿命の差が大きい

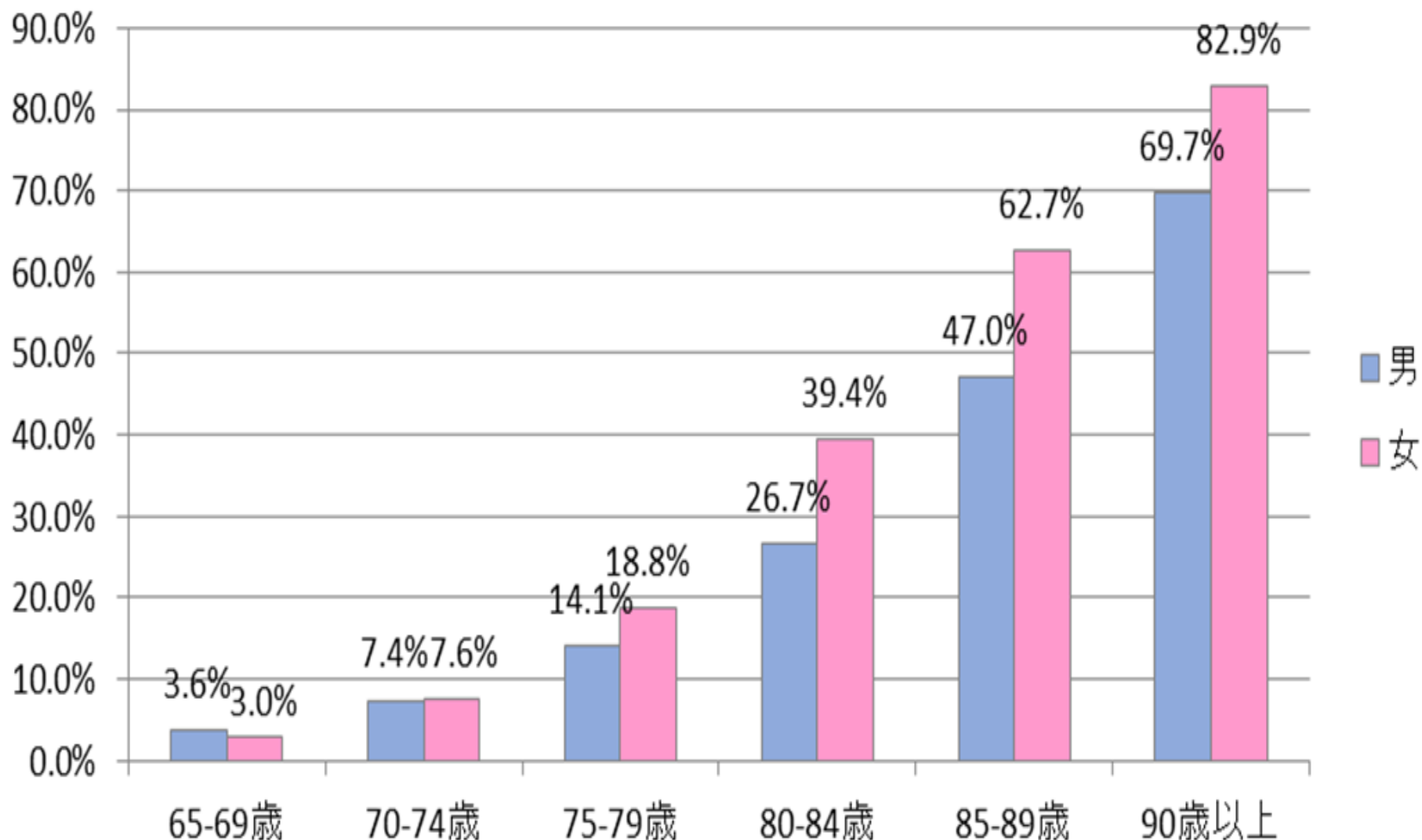


「支えられる側」から「支える側」へ

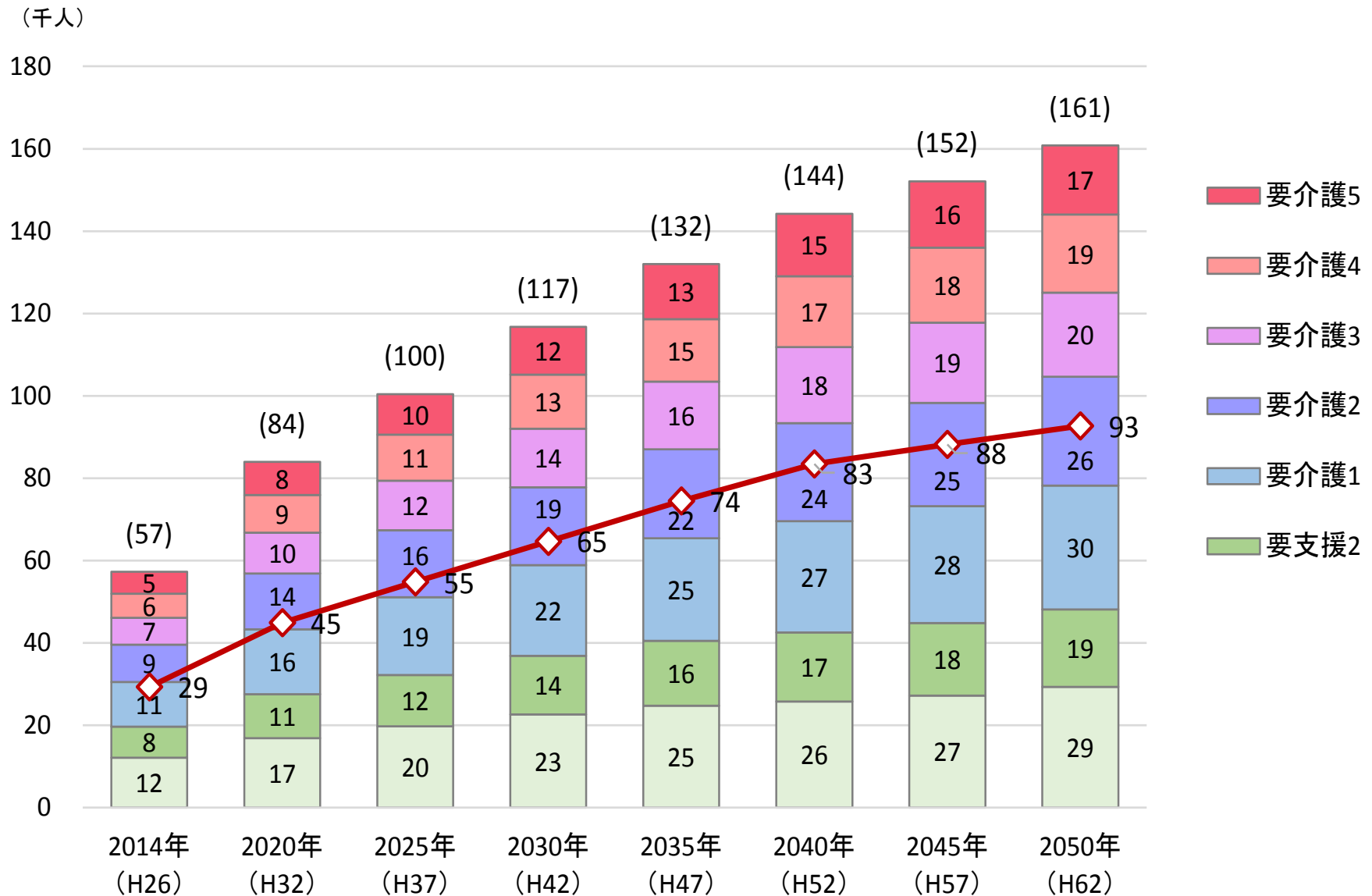


「支える側」での活躍を応援！

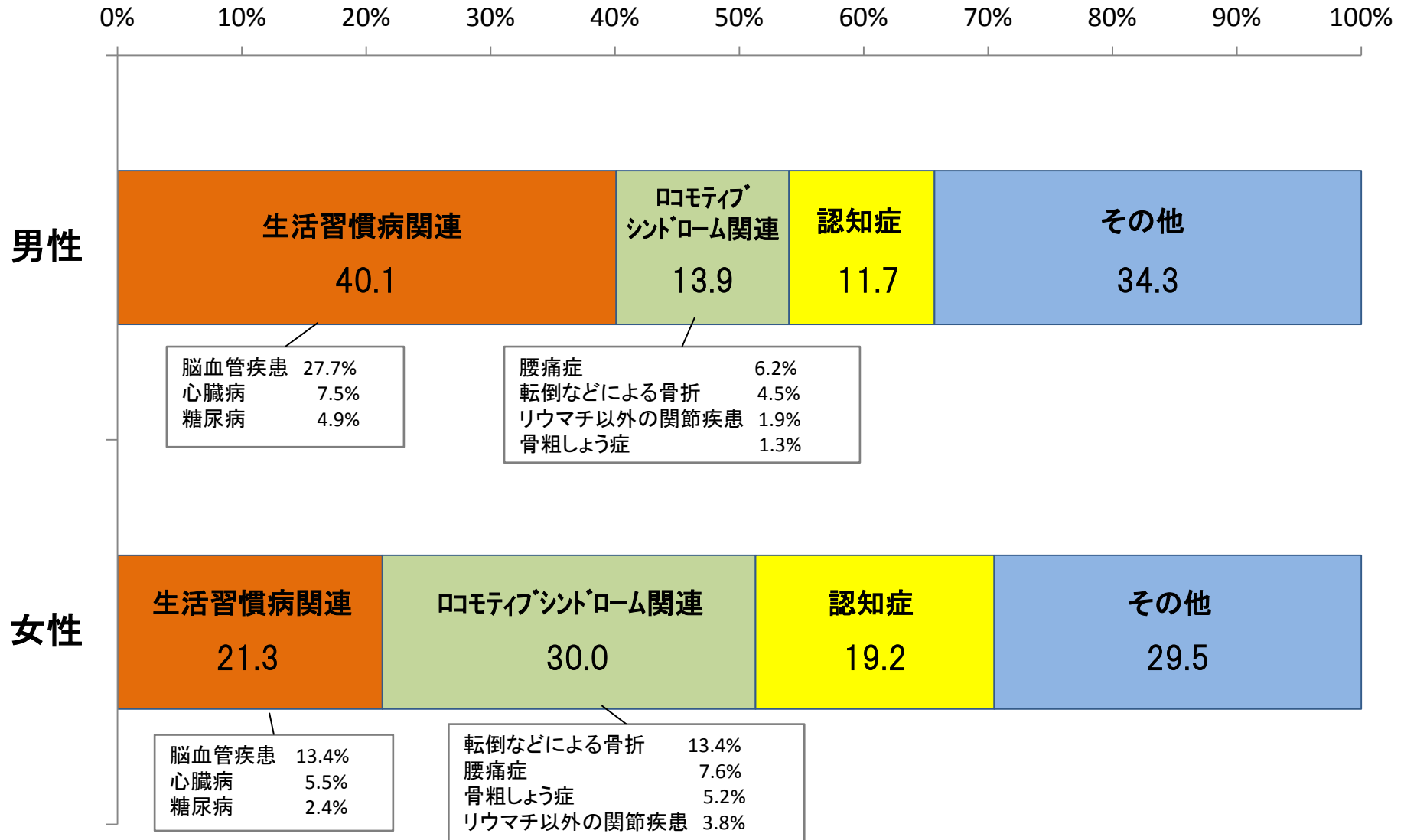
高齢者の要介護認定率(福岡市)



要介護高齢者と認知症高齢者の将来推計(福岡市)



要介護状態になった原因(H25)



自立度の変化パターン(全国)

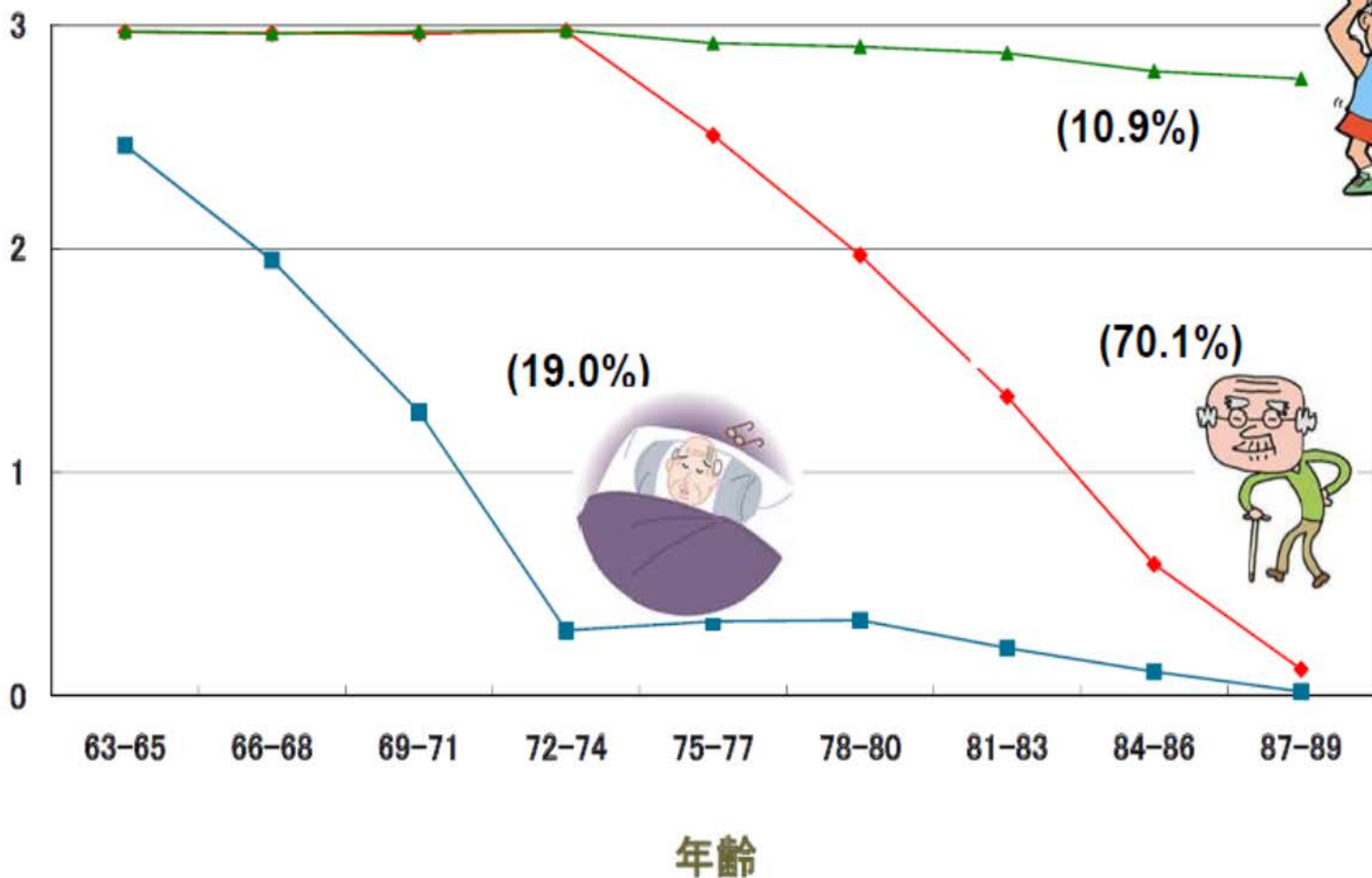
【男性】

自立

手段的日常生活動作に
援助が必要

基本的&手段的日常生活動作に
援助が必要

死亡



自立度の変化パターン(全国)

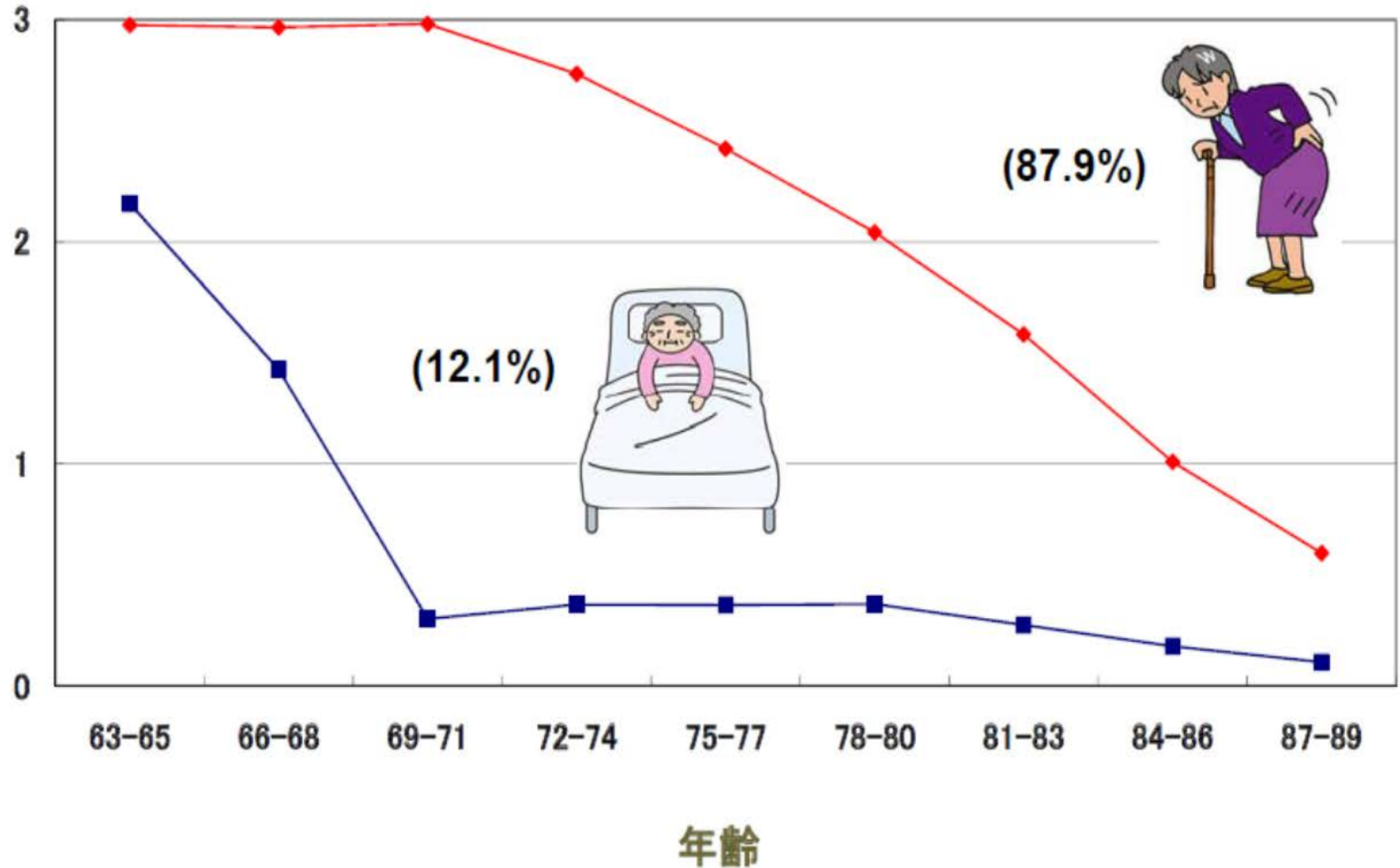
【女性】

自立

手段的日常
生活動作に
援助が必要

基本的&手
段的日常生
活動作に援
助が必要

死亡



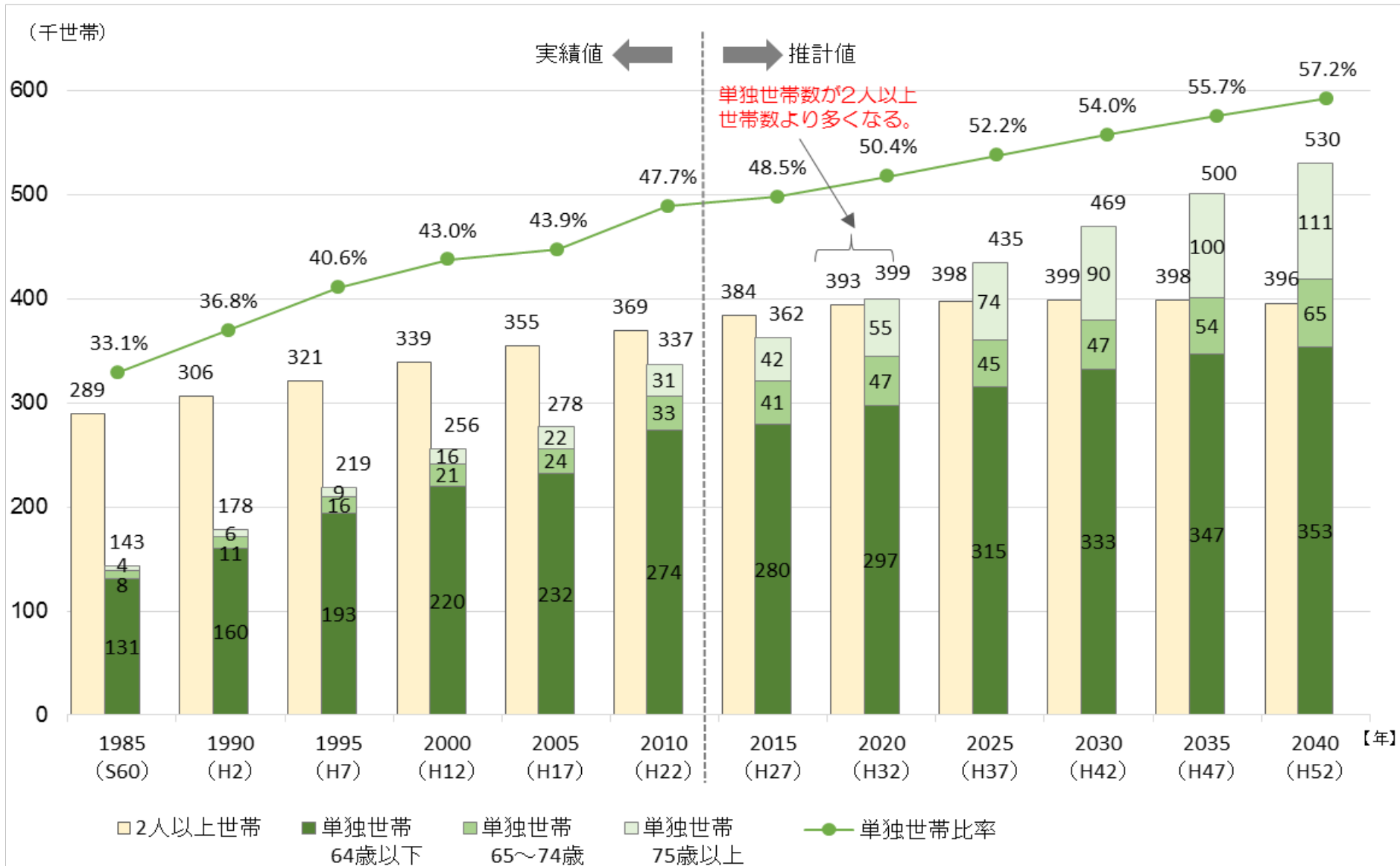
健康寿命の延伸

- ① 生活習慣病の予防
- ② 認知症の早期発見, 治療
- ③ 骨・関節系の強化

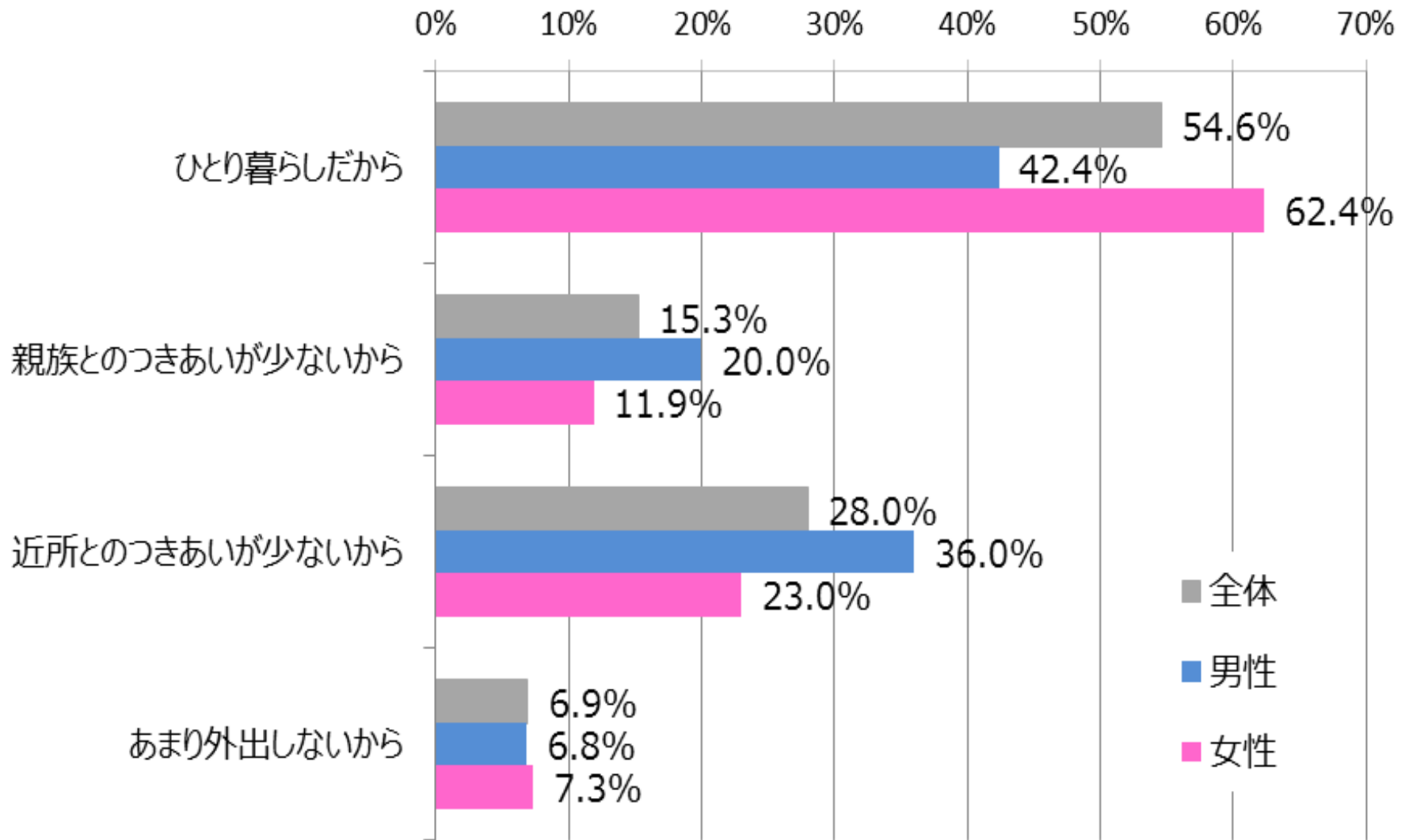
**特定健診(40才以上)
の年齢層を重点的に
健康づくり施策を強化**

超高齢社会に向けての 「地域」のあり方

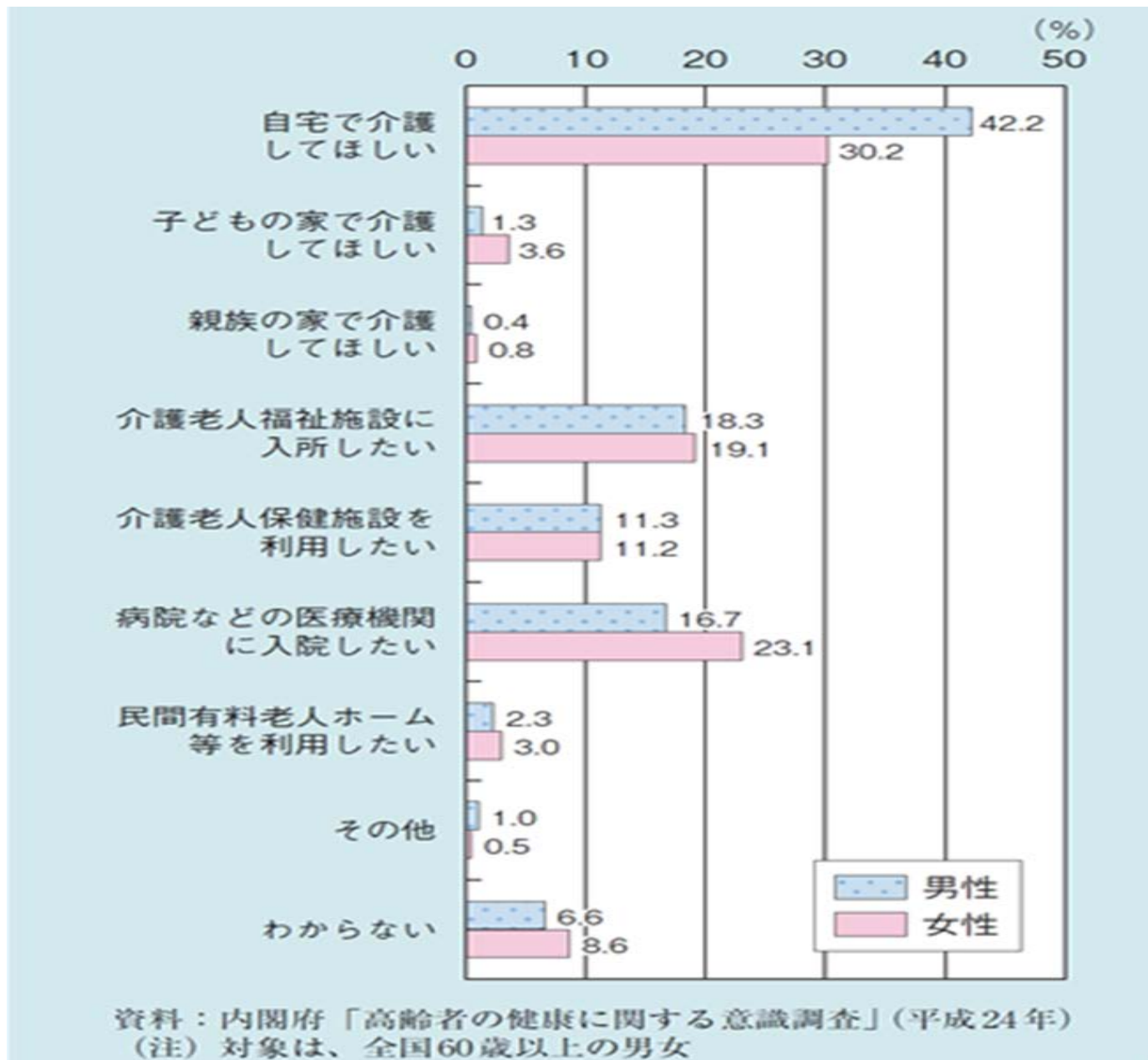
世帯構成の推移(福岡市)



孤立死する可能性があると思う理由（福岡市）



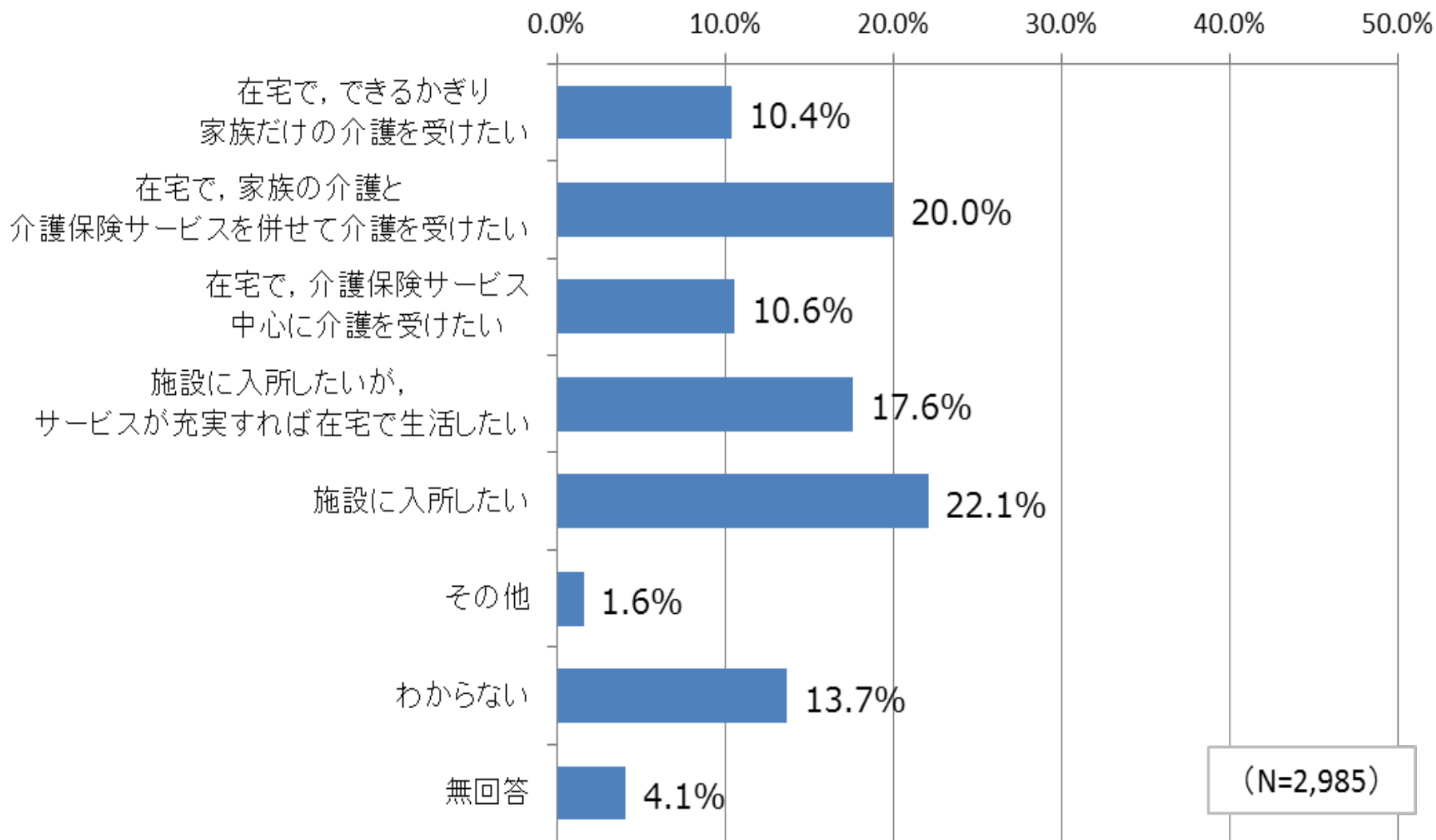
介護を受けたい場所 「自宅」が男性約4割, 女性3割 〈全国〉



介護が必要になったときの考え

「在宅で介護を受けながら生活したい 58.6%」 <福岡市>

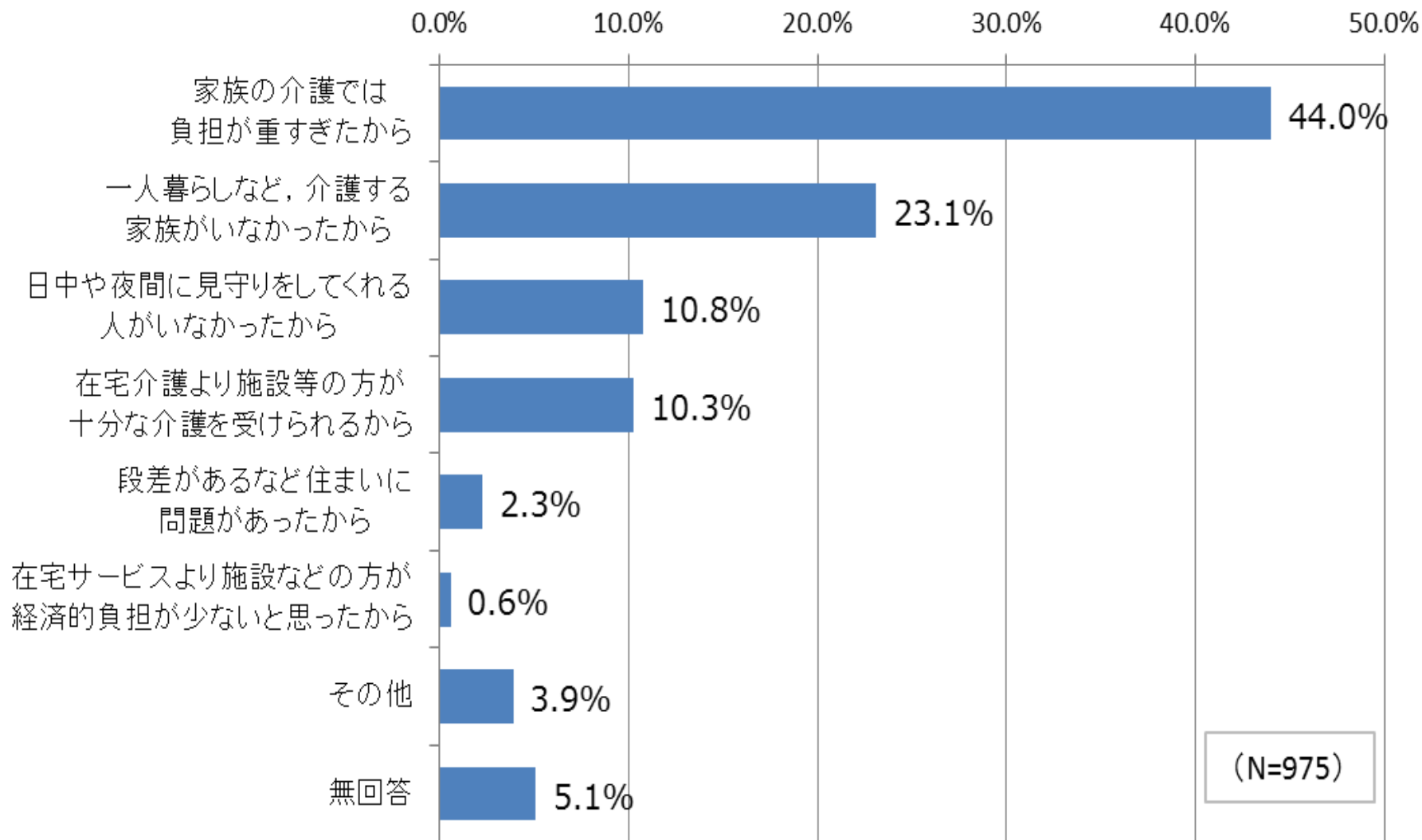
<Q. 今後、どのように介護を受けていきたいか>



施設等を希望した理由

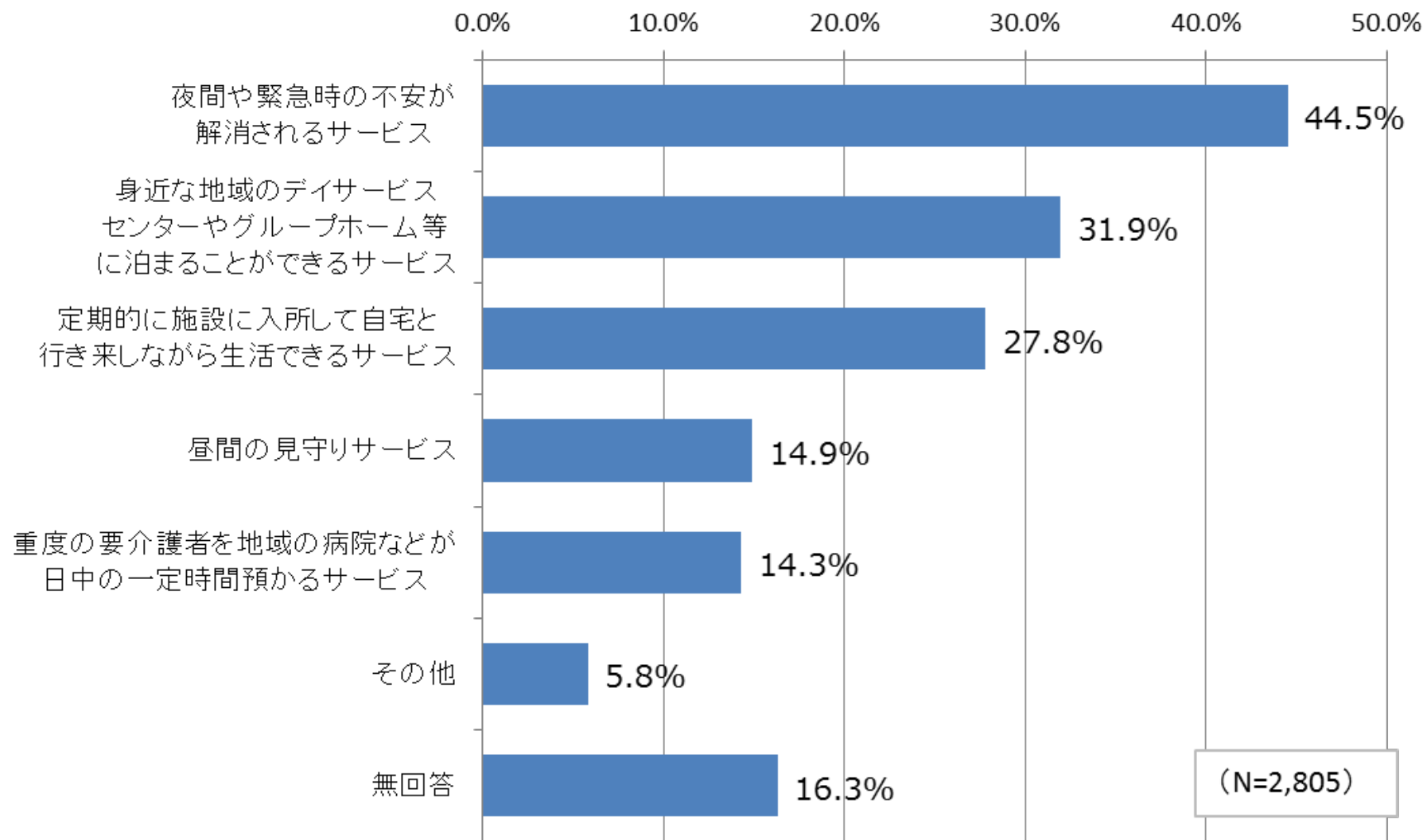
「家族の介護では負担が重すぎたから 44.0%」で最多 〈福岡市〉

＜Q. なぜ、施設等を希望したのか＞

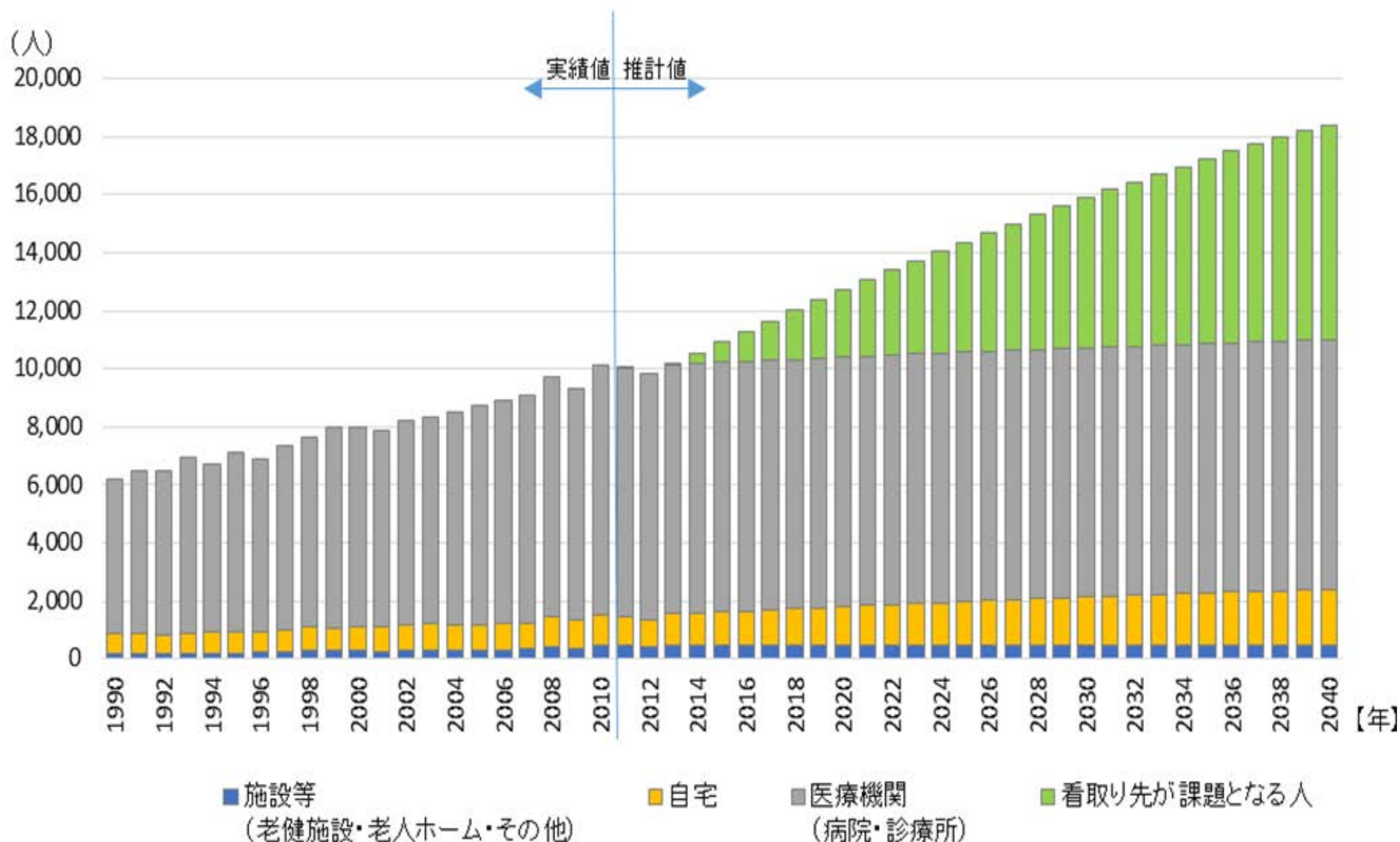


介護者が在宅介護を続ける上で必要と思うもの 「夜間や緊急時の不安が解消されるサービス44.5%」で最多 〈福岡市〉

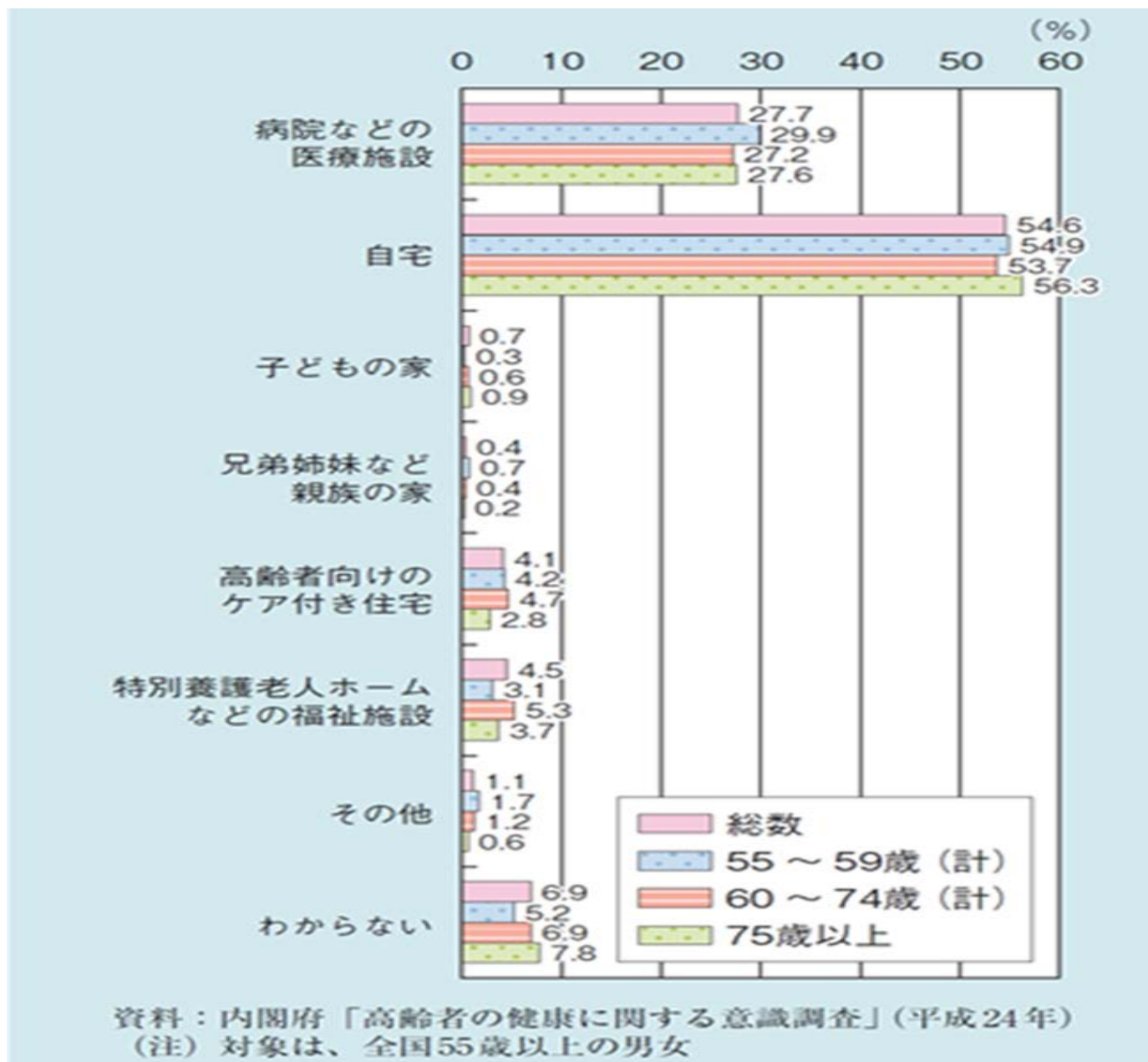
＜Q. 在宅介護を続けるために必要性が高い(利用したい)サービスは＞



死亡者数の将来推計と亡くなる場所（福岡市）



最期を迎えたい場所 「自宅」が半数を超える 〈全国〉



○ 個人

- ・ 住まい
- ・ 生活支援（見守り等）

○ 社会システム

（ボランティア，就労を含む）

- 保健・医療・介護の質の改善
- 高齢者の価値観の尊重
- 健康の視点を考慮した
コミュニティ・まちづくり

保健・医療・介護の質の改善

- ① エビデンスに基づいた施策を積極的に推進
- ② かかりつけ医が「ゲート・オープナー」
- ③ ICTの活用

情報通信技術(ICT)の活用

1. 地域包括ケアシステム実現のための 福岡市地域包括ケア情報プラットフォーム

①データ集約システム
基盤となるデータの整理・集約

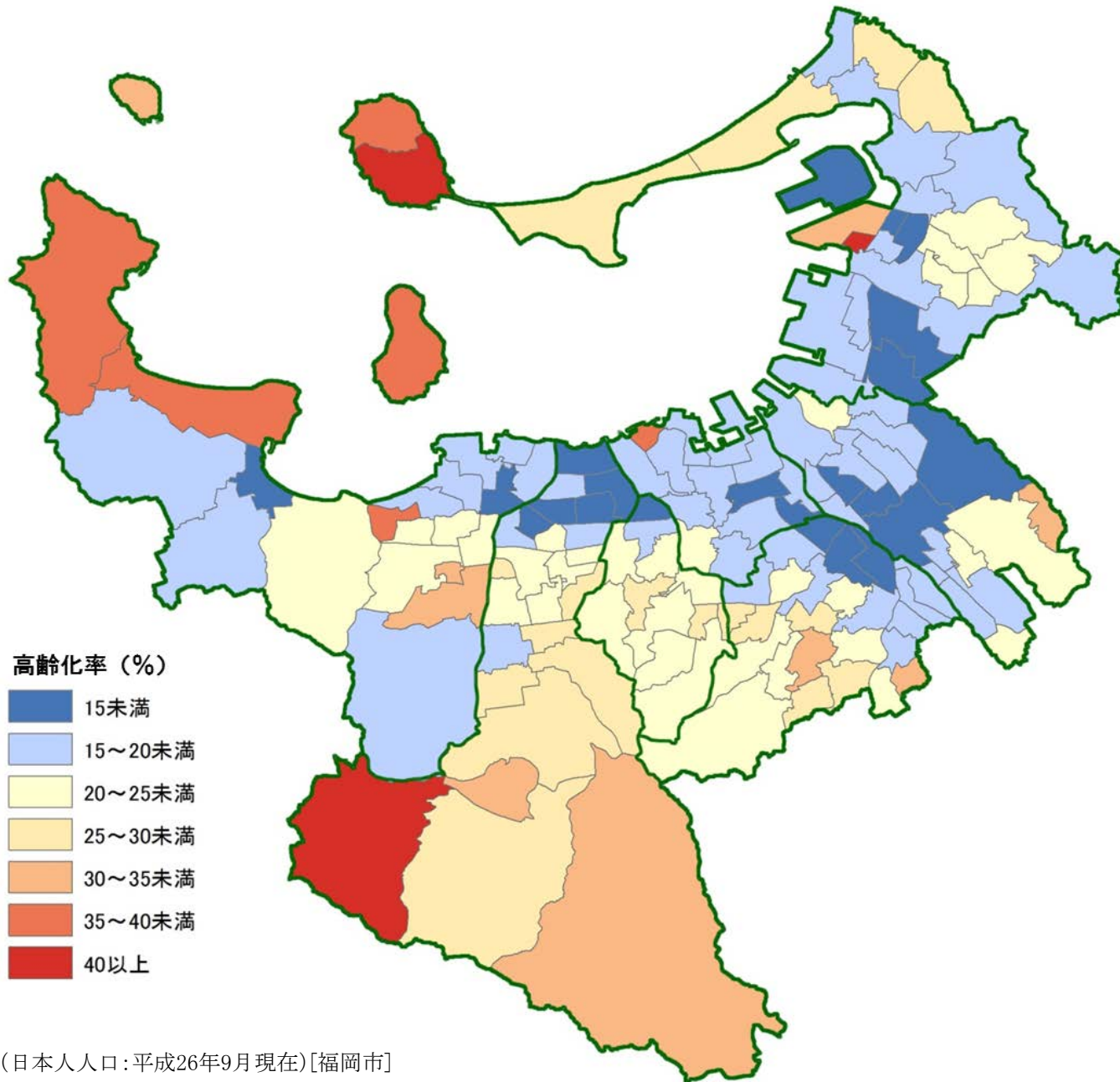
②データ分析システム
データの見える化/分析・解析

③多職種連携システム
「ケアノート」による医療・看護・介護の連携

④情報提供システム
地域で安心して暮らしていくための情報提供

2. 先進的デバイスなどICTを活用した 高齢者見守りシステム

2014年の校区別高齢化率(福岡市)



福岡市地域包括ケアシステム